平成28年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年８月12日

上場会社名	株式会社アールテック・ウエノ		上場取引所　東
コード番号	4573	ＵＲＬ　http://www.rtechueno.com/	
代表者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）真島　行彦	
問合せ先責任者	（役職名）ビジネスマネジメント部長	（氏名）中村　宏司	ＴＥＬ　03-3596-8011
四半期報告書提出予定日	平成27年８月12日	配当支払開始予定日	―

四半期決算補足説明資料作成の有無：　無

四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成28年３月期第１四半期の業績（平成27年４月１日～平成27年６月30日）

（１）経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年３月期第１四半期	1,768	54.2	183	32.5	225	65.6	171	49.7
27年３月期第１四半期	1,146	△24.5	138	△69.7	136	△72.9	114	△67.5

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年３月期第１四半期	8.88	8.83
27年３月期第１四半期	5.94	5.90

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年３月期第１四半期	15,579	11,919	76.0	613.16
27年３月期	15,785	12,083	76.1	621.88

（参考）自己資本　　28年３月期第１四半期　　11,841百万円　　27年３月期　　12,009百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年３月期	―	0.00	―	30.00	30.00
28年３月期	―				
28年３月期（予想）		0.00	―	35.00	35.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．平成28年３月期の業績予想（平成27年４月１日～平成28年３月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第２四半期（累計）	3,384	24.0	594	44.5	596	28.9	417	17.1	21.61
通期	7,483	12.0	2,300	32.9	2,303	22.2	1,612	17.0	83.48

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年３月期１Ｑ	19,312,300株	27年３月期	19,311,800株
②　期末自己株式数	28年３月期１Ｑ	52株	27年３月期	52株
③　期中平均株式数（四半期累計）	28年３月期１Ｑ	19,312,144株	27年３月期１Ｑ	19,302,611株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外でありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きは完了しております。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 5
第１四半期累計期間 …… 5
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 6
（継続企業の前提に関する注記） …… 6
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 6
（セグメント情報等） …… 6

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期のわが国経済は、為替相場や株式市場の堅調な推移を背景に、緩やかな回復基調となりましたが、個人消費は伸び悩んでおり、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

医薬品業界におきましては、後発品の普及促進、長期収載品の薬価引き下げ等の医療費抑制政策により引き続き厳しい状況にあり、新薬開発が一層重要な課題となっております。

このような状況のもと、当社は製品価値の最大化に向けた販路の再構築や眼科・皮膚科領域における新薬の創出を目指し、積極的に事業活動に取り組みました。

当第１四半期累計期間の売上高は、米国及び日本においてAMITIZA®カプセルの販売が堅調に推移したことにより、1,768百万円（前年同期比54.2%増）となりました。

利益面におきましては、UF-021の第３相臨床試験の終了に伴う費用が発生したことに加え、RTU-1096の第１相臨床試験等を実施したこと等により、研究開発費が667百万円（同67.8%増）となりましたが、上記の増収により、営業利益は183百万円（同32.5%増）、経常利益は225百万円（同65.6%増）となりました。また、研究開発費の税額控除があったこと等により、表面税率が21.1%となったため、四半期純利益は171百万円（同49.7%増）となりました。

現時点におきましては、平成27年５月14日に発表致しました第２四半期累計期間及び通期の業績予想に対して、順調に推移しております。

事業部門別の状況は次のとおりであります。

（レスキュラ®点眼液）

＜日本市場＞

当社の主力商品であるレスキュラ®点眼液は、製品価値の最大化に向け、販売先との共同プロモーションに注力し、次の施策を行っております。

①緑内障の早期発見を目指して眼科医を対象に眼底読影勉強会を積極的に開催するとともに、製品説明会等を通じ、レスキュラ®点眼液の販売促進活動を行う

②学会セミナーの開催や講演会記録集等の作成により製品特性等の情報提供を活発に行い、レスキュラ®点眼液の認知度向上・普及促進活動に取り組む

上記①、②の施策を行っているものの、納品の一部が第２四半期会計期間となったことにより、当第１四半期累計期間の売上高は181百万円（同30.5%減）となりました。

（AMITIZA®カプセル）

＜北米市場＞

当社は米国のSucampo Pharma Americas,Inc.との北米地域における独占的製造供給契約に基づき、慢性特発性便秘症、便秘型過敏性腸症候群及びオピオイド誘発性便秘症治療薬の受託製造を行っております。

当第１四半期累計期間の売上高は、販売が堅調に推移したことにより、786百万円（同54.4%増）となりました。

＜日本市場＞

日本市場におきましては、スキャンポ社との独占的製造供給契約に基づき、慢性便秘症（器質的疾患による便秘を除く）治療薬の受託製造を行っております。

当第１四半期累計期間の売上高は、前年同期と比べ大幅に伸びており、763百万円（同143.1%増）となりました。

（医薬品開発支援サービス）

医薬品開発支援サービスの当第１四半期累計期間の売上高は36百万円（同40.5%減）となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当第１四半期会計期間末における流動資産は10,124百万円となり、前事業年度末に比べ551百万円減少いたしました。これは主に仕掛品が388百万円増加したものの、現金及び預金が836百万円減少したことによるものであります。

固定資産は5,455百万円となり、前事業年度末に比べ345百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が352百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は15,579百万円となり、前事業年度末に比べ205百万円減少いたしました。

（負債）

当第１四半期会計期間末における流動負債は1,104百万円となり、前事業年度末に比べ55百万円減少いたしました。これは主に買掛金が148百万円増加したものの、未払法人税等が306百万円減少したことによるものであります。

固定負債は2,555百万円となり、前事業年度末に比べ14百万円増加いたしました。これは主に繰延税金負債が18百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は3,660百万円となり、前事業年度末に比べ41百万円減少いたしました。

（純資産）

当第１四半期会計期間末における純資産合計は11,919百万円となり、前事業年度末に比べ164百万円減少いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が238百万円増加したものの、剰余金の配当を579百万円行ったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は76.0％（前事業年度末は76.1％）となりました。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月14日の決算短信で公表いたしました第２四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

２．四半期財務諸表

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成27年３月31日）	当第１四半期会計期間 （平成27年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,762,911	6,926,768
売掛金	824,949	844,882
製品	138,275	27,871
仕掛品	1,160,808	1,549,507
原材料及び貯蔵品	244,986	245,427
その他	543,519	529,897
流動資産合計	10,675,451	10,124,355
固定資産		
有形固定資産	348,321	337,362
無形固定資産	62,296	65,604
投資その他の資産		
投資有価証券	4,646,845	4,999,757
その他	52,359	52,359
投資その他の資産合計	4,699,205	5,052,117
固定資産合計	5,109,823	5,455,083
資産合計	15,785,274	15,579,439
負債の部		
流動負債		
買掛金	360,257	508,780
未払法人税等	426,181	120,060
その他	374,128	476,095
流動負債合計	1,160,567	1,104,936
固定負債		
長期借入金	1,049,809	1,049,809
繰延税金負債	1,416,289	1,434,856
資産除去債務	41,295	41,475
その他	34,049	29,306
固定負債合計	2,541,443	2,555,447
負債合計	3,702,011	3,660,384
純資産の部		
株主資本		
資本金	661,760	662,087
資本剰余金	601,560	601,887
利益剰余金	7,637,614	7,229,844
自己株式	△82	△82
株主資本合計	8,900,852	8,493,736
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,108,809	3,347,766
評価・換算差額等合計	3,108,809	3,347,766
新株予約権	73,601	77,551
純資産合計	12,083,263	11,919,054
負債純資産合計	15,785,274	15,579,439

（２）四半期損益計算書

（第１四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自　平成26年４月１日 至　平成26年６月30日）	当第１四半期累計期間 （自　平成27年４月１日 至　平成27年６月30日）
売上高		
製品売上高	1,121,886	1,743,546
ロイヤリティー収入	25,000	25,000
売上高合計	1,146,886	1,768,546
売上原価	418,379	684,214
売上総利益	728,506	1,084,331
販売費及び一般管理費	589,897	900,738
営業利益	138,609	183,593
営業外収益		
受取利息	591	904
為替差益	－	40,682
その他	1,594	286
営業外収益合計	2,185	41,873
営業外費用		
為替差損	4,657	－
営業外費用合計	4,657	－
経常利益	136,137	225,467
特別損失		
固定資産除却損	85	7,904
特別損失合計	85	7,904
税引前四半期純利益	136,051	217,563
法人税、住民税及び事業税	11,974	115,207
法人税等調整額	9,494	△69,226
法人税等合計	21,469	45,980
四半期純利益	114,582	171,582

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第１四半期累計期間（自平成26年４月１日　至平成26年６月30日）及び当第１四半期累計期間（自平成27年４月１日　至平成27年６月30日）

当社は、医薬品の製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。